

三商レポート

第七十八話「死別体験の意味づけ」

相続フラザ 花小金井 (株)三商 内藤 雄

〒187-0003 小平市花小金井南町 1-14-24 TEL 042-467-2103

URL <http://www.souzokusoudan.net> E-mail sansyo@trus.ocn.ne.jp

長い看病にもかかわらず 50 歳のご主人をガンで亡くした A さん。
原因不明の難病で 7 歳の娘を亡くした B さん。
22 歳の誕生日を目前にした娘さんを病気で亡くした C さん。
大切な人と死別した人の喪失感は深く大きい。死を受け入れられない。慰めや励まし
の言葉も届かない。
「どうして！寝たきりでもいいから生きていて。これから私はどうしたらいいの。」
「もっともっと優しくしてあげればよかった。」
「助けてあげられなかった。他に方法があったのではないか。」
悲しみ・不安・絶望感・孤独感・自責・罪悪感など、さまざまな感情を伴う。

残された人はそれでも生きていかなければいけない。生きていたくても生きられない
人のためにも。やがて喪失の現実を受け入れ、喪失の意味づけを考え始める。つらい
作業となる。亡くなった人を思いながら自分を納得させ、折り合いをつけていく。

「そう、主人は私を解放してくれたのだ。これからは、私の人生をもう一度やり直そう。
きっと主人が見守ってくれる。」(A さん)
「娘は私に人の痛みや苦しみに寄り添える力をプレゼントしてくれたのだ。笑顔で人の
ために尽くそう。」(B さん)
「娘は何のために生まれてきたのだろう。親を成長させるためなのだ。人の役に立てる
人間になろう。」(C さん)

死別体験は新たな変化と成長をもたらしてくれる。意味づけ作業を通じ気づくと考
えが変わる。考えが変わると感情が変わる。感情が変わると行動が変わる。人生観も
変わってくる。

人の死にかかわる相続アドバイザーは、つらい死別体験をした人に寄り添い、意味づ
けの聴き手となることで再起への支援をすることも大切な役割になるのではないか。
こう考えると、相続アドバイザー自身の喪失体験にもきっと意味がある。

(2010 年 12 月 1 日)

特別公開講座のお知らせ

読売・日本テレビ文化センター

よみうりカルチャー恵比寿

50歳になったら相続学校

主催：(株)東京アプライザル 相続知識検定協会
共済：読売・日本テレビ文化センター
後援：NPO法人相続アドバイザー協議会

- ☆ 実は、相続のことって何も教わっていない
- ☆ 残される家族のことを考えて
- ☆ 手軽に相続を学びたい
- ☆ 相続問題を円滑に解決したい
- ☆ 相続知識をビジネスに活かしたい

こんな方にピッタリの講座です。

相続に詳しいプロの弁護士・税理士が相続のポイントを分かりやすく解説。2講座を受けると来年度開設予定の「**相続知識検定**」**4級レベル**の知識が学べます。

第1講座	定員 40名	第2講座	定員 40名
2011年1月25日(火) 夜7時～9時		2011年2月5日(土) 午後1時～3時	
講師：弁護士 松本徹子 先生		講師：税理士 遠山順子 先生	
受講料：4,725円(教材費込み)		受講料：4,725円(教材費込み)	

- ◎ 会場：両講座とも恵比寿センター (JR恵比寿アトレ 7階)
- ◎ お申込：よみうりカルチャー恵比寿 **03-0373-5005**

直接お電話でお申込下さい。